

「かわいいそう」だけで終わってない？

南陽市立赤湯中学校 三年 青山 心音

私は、中学三年のこの夏、長年続けて来たバスケットボールの試合で、リバウンドを取る時のジャンプの着地時に、右足を捻挫、骨折しました。骨折した時は、歩けないほど痛みが強く、生まれて初めてギブスを巻き、しばらくの間は松葉杖を使用した生活を送ることになりました。

当時は、松葉杖に慣れていないこともあり、ふらふらし、転びそうになったりと、これまでの生活とはまったく異なり、不便さを感じながらも生活を送っていましたが、どうしても観たい映画があり、また行きたいお店があり、松葉杖だけれど、自由に動けないけれど、家族でショッピングモールに行くことになりました。ショッピングモールはとても広く、松葉杖での移動はとても大変です。そのため店内の移動は車いすを借りることになりました。しかし、私の前を二、三人組で並んで歩いて通路をふさいだり、脇から急に走ってきてぶつかりそうになる人がいたり、まるで自分のことしか考えていないかのように道を塞がれるのです。「なんで？」と思いながらも、ケガをする前の自分の行動を思い起こしてみました。「あつ、私も一緒だったかも」と思い罪悪感が生まれ、私の心に突き刺さってきました。以前の私は「何でこの人は車いすを使っているのだろう」「何で歩き方がみんなと少し変わっているのだろう」と疑問に思うだけで、理由を考えたり、調べてみたりはしませんでした。今回の出来事もあり、調べてみると、今まで自分が知らなかったことがたくさん書いてあり、納得することやわからないことを理解することができ「そうだったんだ」という自分がいました。車いすは、歩行が困難な人の移動を助け、日常生活や社会生活を円滑にすることができま

す。しかし、一人で操作する時はとても大変で、両腕の力がとても必要です。他の人に車いすを押してもらった時も、もし車いすの前に他の人がいたら、車いすは動くことができません。な

ってしまいます。

他にも、人それぞれ感じ方は違うと思いますが、「かわいそう」と言われた時です。

私は、ショッピングモールで、周囲の人にじろじろ見られ、「かわいそう」と言われました。私は「何でかわいそうなの？」「私はちっともかわいそうな人ではないんだけど」「でももしかしたら、私ってかわいそうな人なのかな？」と感ずることが多くありました。それは恐らく、「かわいそう」「かわいそう」と同情されると「私ってそんなに情けない人なのかな」など、深く考えてしまうからだと思います。ネガティブな言葉よりもポジティブな言葉をどんどん伝えることが、聞いている人も周りの人も、言ってくれる人も言ってもらっている人もみんな、もしかしたら少しは「がんばろう」って思えるかもしれません。

だから、もし、悲しんでいる人や助けを求めている人がいたら「かわいそう」や「なんで？」と軽蔑したりネガティブな言葉でなく、「がんばってるね」や「何かできることはない？」などとポジティブな言葉をかけていきたいと思いました。そして、言葉だけではなく、車いすやケガをしている人のことを優先し道や物事を譲ることが大事だと感じました。もし、車いすやケガをしている人が、後ろにいるのに誰も道を譲ってくれないと、悲しいだけでなく、病気がひどくなるかもしれません。

車いすの人やケガをしている人に道を譲ると、とても良いメリットがあります。それは、譲った人に「ありがとう」と感謝の言葉を言われることがあるからです。その時きつと心が「ほっ」とするはずです。そして「また譲ってあげよう」と思うはずです。それを思った人は、行動する前はどんなに悪い人でも、行動した後は必ず優しい人になっているはずです。

これから、私は、ケガをしている時も、そうではない時も、人に優しく、自分の事よりも相手を思いやれる生活をしていきたいと思いました。そして、障害を持っている人の気持ちになることはできないけど、その人たちがどんな気持ちなのかを考えることはできます。みんなが、「かわいそう」だけでは終われない、みんなが思いやりのある、優しい世界を作りたいです。